

第2回 男鹿市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時：令和元年11月12日（火）14：00～16：00

場 所：男鹿市役所3階 第一会議室

出席委員：加藤 義光 武内 信彦 諸井 秀樹 田口 義則 佐藤 哲彦 橋本 秀樹
宮崎 一彦 越後谷真悦 北村 浩二 佐藤 誠一

代理出席：吉田 文勝（京極 芳郎） 牧野 正人（太田 修）

欠席委員：なし

市役所：市長 菅原 広二

副市長 船木 道晴

教育長 栗森 貢

総務企画部長 柏崎 潤一

市民福祉部長 山田 政信

観光文化スポーツ部長 藤原 誠

産業建設部長 佐藤 透 教育次長 目黒 雪子

企業局長 八端 隆公

総務課危機管理室長 三浦 幸樹 介護サービス課長 平塚 敦子

生活環境課主幹(代理出席) 岩谷里美 健康子育て課長 鎌田 栄

観光課長 三浦 一孝 男鹿まるごと売込課長 湊 智志

文化スポーツ課長 原田 徹 農林水産課主幹(代理出席) 三浦昇

建設課長 畠山 喜美 学校教育課長 加藤 和彦

企業局管理課主幹(代理出席) 目黒一人 男鹿みなと市民病院事務局長 田村 力

(事務局) 企画政策課 課長 伊藤 徹 主幹 杉本 一也

副主幹 佐藤 誠 主事 加賀 有陽

一 次 第 一

1 開 会

2 本部長（市長）挨拶

3 案件

(1) 第2期男鹿市総合戦略（素案）について【資料1～3】

(2) 意見交換

4 閉 会

— 議事（発言要旨） —

（ (1)第2期男鹿市総合戦略（素案）について ）

事務局（佐藤）

（資料1，2により全体の概要について説明。）

加藤義光委員

資料3における前回との違いや特筆すべき点をお知らせ願いたい。

事務局（佐藤）

（現在の総合戦略からの変更点、新たに設定した目標値について説明。）

吉田文勝委員

ネギのメガ団地、今後重要になってくると思う。潟上市でも大きなネギの団地がある。作物においては市町村を越えた枠組みを作って検討してもらえれば。併せて、特産品の生産にも力を入れてもらいたい。和梨も個人での作付けが限界にきているので、移住・安定した生活応援も含めてこちらでも検討しているので、行政と一緒にやっていきたい。

佐藤産業建設部長

市町村間の取り組みについては、今年度から秋田市、潟上市、男鹿市、JAで6次産業化に関する団体をつくっており、その中で検討していく。和梨は後継者不足が大きな課題としてある。今ある補助事業を活用しながら課題に向かっていきたい。

加藤義光委員

地方創生ということで費用対効果が重要視されている。出産の支援については、みなと市民病院で支援をするという考えなのか、それとも市外の病院での出産に対する支援も含めるのか。また、安全・安心のまちづくりに関係して、市内の空き家戸数はどのくらいあるのか。

山田市民福祉部長

妊娠・出産への支援については、出生数の減少に対応して男鹿市民の出産に対して支援をしていくということで考えている。

三浦総務課危機管理室長

シルバー人材センターの協力により得られたデータでは、全体で1,510件、そのうち利活

用可能と考えられる空き家が 641 件となっている。

加藤義光委員

オガレについて、観光 DMO と連携して 1 年目としてはいいスタートが切れたと考えている。40 万人を超える方がオガレ及びその周辺を訪れているが、周遊観光へのつながりや駅前周辺との連携を官民連携で進めていかなければならないと思う。また、船越地区に対しても、両建ての支援は難しいかもしれないが頑張っていたきたい。

藤原観光文化スポーツ部長

オガレについては、初年度はオープン効果もあったが、2 年目は若干苦戦している。男鹿駅前周辺整備と合わせてまちなかへ人がいきわたるようにしていきたい。空き店舗への出展支援等の施策と絡めながら進めていく。船越地区への店舗誘致については、情報収集しながら取り組みを行っていく。

武内信彦委員

DMO 関係の指標数値について、算出方法を伺いたい。また、クルーズ船の寄港など船川港の利活用が挙げられているが、北前船等の海からのつながりも今後は生かしてみてもどうか。市外、県外で活躍されている方との接点を積極的に持ち、関係人口層を形成していくことが今後のためにもなると思う。

三浦観光課長

観光入れ込み客数については、近年のピーク値である H25 頃の 270 万人を指標としている。宿泊客数も同様の考え方で 15 万人として設定した。DMO の収支については、徐々に前年度売り上げを増やしていくという目標に基づき数値設定を行った。

DMO では、地方創生推進交付金を活用して人材を確保し、そのネットワークを生かして事業を行っていくことも検討したい。

藤原観光文化スポーツ部長

船川港の活用についてトップセールスを行いながら誘致を行っているが、クルーズ船の大型化で難しい面もある。北前船については、日本遺産登録というネームバリューもあるので、男鹿への誘客に向けた施策の一つとなってくると考えている。

田口義則委員

観光誘客、二次交通、インバウンド関係で様々な事業を記載しているが、引き続き連携して取り組みを実施していきたい。

吉田文勝委員

SL が男鹿に来ていたが、1年に2回きてもらうことは難しいのか。地元ではすごい人だからで大人気であった。

田口義則委員

SL は東北管内で他に動かしたいところもあるので、1年に1回が限度。

菅原市長

SL については、費用もかかるところ JR さんでよくやっていただいた。クルーズ船については、小型のラグジュアリー船がこられるよう県とも頑張っているところ。秋田港から入った観光客をどう男鹿に連れてくるか、エージェンツ回りも力を入れてやっていきたい。男鹿駅前広場は、みんなで連携していかなければならないと考えているので、皆さんからも忌憚のないご意見をいただきよりよくできるようやっていきたい。

諸井秀樹委員

1次産業だけでなく、2次、3次産業も担い手不足で状況はよくない。そんな中、ふるさと納税は最近受注も増えてきており、全体の状況をお聞かせ願いたい。ふるさと納税の返礼品の数については、おいそれと増やしていくことはできないだろうと思う。新たに創り出すことが必要であるが、サポート体制の充実が望まれる。何をやっていくのかを具体化して考えていかなければならない。今、商品づくりをしている方々のブラッシュアップもひとつの案だ。

観光の目線で行くと、県で発酵ツーリズムを検討しているようだ。実際にやるとなると衛生管理上の課題等クリアしなければならないものが多い。大変だと思うが、船川のまちで連携しながらやっていきたいと思っている。発酵という観点で、男鹿から何か発信していきたい。ネットワークづくりについては行政からも手助けをしていただきながら進めていければと考えている。

湊男鹿まると売込課長

ふるさと納税の今年度実績は、本年10月末までで1億8千300万円であり、前年度比で約9倍とかなりの伸び率になっている。インターネットサイトを3サイトから10サイトに拡充したことが効果があったと思われる。返礼品は現在250品目となっており、体験型の返礼品も増やしているところである。販路拡大事業を検討しているので、連携して商品開発等に取り組んでまいりたい。

発酵ツーリズムについては、潟上市の小玉醸造などもあるので、広域的な連携も視野に入れながら考えていけるのではと個人的には考えているところである。

佐藤哲彦委員

まず、就業資格取得支援事業で、医療福祉に係る取得者数が5年間で25人となっている。みなと市民病院に係る記載はあるが、福祉分野に係る部分はどの程度見込んでいるのか。

コンパクトシティに関する事項の中で、都市機能が集積した……という記述がなされているが、ずいぶん大きなイメージであるため生活機能といった文言にしてもよいのではないか。

予防としての検診の受検率を指標に持ってくるのはよいと思うが、認知介護予防だけでなく、現在要介護となっている方々への対応に関する指標の導入も検討してもらいたい。

防災リーダーの増加も指標の一つになっているが、現在は市役所、民間企業の方々でどの程度なられている方がいるのか。

市民が安心して住まえるまちづくりを考えていくうえで、コミュニティスクールでじじばばに先生に来てもらって、地域のことを子どもたちに伝えることと生きがいづくりの一助としてはどうだろうか。

平塚介護サービス課長

今後、地域包括ケアシステムの考え方に加えまして、地域共生社会の形成が入ってくる。地域全体を我がこととして捉えて、皆がケアする地域づくりが求められている。現在、他団体とも協議を重ねながら検討しているところである。市民が自主的に健康づくりに取り組んでいける場づくりも進めている。

栗森教育長

コミュニティスクールは指定をして4年目となり、各学校にも学校運営協議会が生まれ外部からの意見を取り入れながら運営を執り行っている。地域の方から色々な経験や知識を得られていることに加え、子どもたちに地域貢献の心が育まれており相乗効果が生まれている。これからも地域と共にある学校づくりを推進していきたい。

柏崎総務企画部長

コンパクトシティは歩いて暮らせるまちづくりということで検討がなされてきたところだが、都市機能か生活機能か、適切な表現となるよう検討いたします。

湊男鹿まるごと売込課長

就業資格取得支援事業については、H29が介護士1名、H30が看護助手1名の実績となっております。その他の資格に係る申請もあることから、資料のと通りの指標設定としているところです。

北村浩二委員

男鹿市広報で最近移住者のコラムを連載している。こういったものをぜひ全国に発信してもらいたい。このあとブラタモリでも男鹿が紹介されるということで、何か起爆剤のようになることを期待している。

確認事項だが、ホテルも人手不足でオンシーズンでも100%の稼働ができない場合があると伺っているが、指標の設定に影響ないか確認したい。

次に、6次産業化に取り組む経営体数について、現在2経営体が5経営体に増加となっているが目算はあるのか。

次に、起業創業件数について目標値が急に少なくなっているようである。公庫でも様々な創業支援を行っているが、過去3年間では男鹿市で該当する案件が1件となっている。男鹿駅前周辺整備を実施していくことも伺っているので、チャレンジショップ等の県外からも挑戦できるものをぜひ検討していただきたい。地域おこし協力隊の方が創業する場合には公庫でも支援できる制度があるので、ぜひ男鹿に残って事業を行うことを検討していただきたい。

三浦観光課長

委員のおっしゃるとおり人手不足は当課でも把握している。今のところは温泉郷等とすり合わせはまだだが、来年度、冬季の賑わいを創出するモデル事業に温泉郷が選ばれており、アクションプランを策定して取り組んでいく予定があることを踏まえて数値を精査していきたい。

佐藤産業建設部長

先に述べさせていただいたが、秋田市、潟上市、男鹿市、JA、管内の農業者・漁業者等生産者、加工業者で組織される秋田中央地区地場産品活用協議会が立ち上がり、6次産業化について検討を重ねている。経営体数については、前回目標値が1経営体であったところ2経営体ができていることも踏まえ、お示しの目標値とした。

湊男鹿まるごと売込課長

起業創業件数の目標値については、こちらへの相談件数などを参考に算出しているが、商工会とも協議し数値を精査する。

柏崎総務企画部長

男鹿駅周辺整備の検討の中では、現在のBBQハウス付近にチャレンジショップを営める場所を提供したいと考えている。周辺では芝生広場や交通結節点を整備し、起業に向けた検討ができるよう計画しているところである。

菅原市長

地方ではチャレンジする人をいかに集めるかが大変だと思っている。皆さんからお知恵をお借りして市内に限らず色々なところからチャレンジする人、創業する若者を集めたい。駅前からまちなかへの波及をJRや商工会と連携してやっていきたい。

加藤義光委員

現在、男鹿海洋高校ではイナダの缶詰作成や雑魚の煮干しづくりを試験している。販売先は県外を想定している。また、諸井さんのしょつつるを活用したやきそば、空揚げ、餃子等、規模は小さいが地元産品を使った6次産業化商品を販売している。

佐藤誠一委員

ブラタモリが男鹿にきたことは強烈なインパクトがあると思う。この機会を今後どう生かしていくかが重要である。

戦略の内容として、全国的に災害の増加が叫ばれる中、防災・減災のまちづくりがあまり強く見えない。防災対策をもう少し検討できないかと思う。

また、委員の中に女性が一人もいないのはいかがかと思うので、女性からの視点を検討するためにも構成を検討してもらいたい。

伊藤企画政策課長

現在の委員任期が来年の3月までとなっていることから、次期委員選任にあたっては構成を検討する。

柏崎総務企画部長

防災リーダーの育成や消防団の育成は行っているところであるが、自主防災組織の強化等を含め厚みを持たせていくことも必要ですので内容を検討してまいります。

藤原観光文化スポーツ部長

ブラタモリは非常に人気も高い番組であり、番組で出たスポットに行ってみたいという方も多くいる。これを機会として男鹿の誘客につなげられるようにしていく。

牧野正人委員

根拠を持って目標値を設定されていると思うので、PDCAをしっかりと回して運用していただきたい。

20～30代の未婚率について、結婚できない要因として賃金の低さも影響していると感じている。今年は県の最低賃金も790円と大幅に増加した。最低賃金はここ20年ほど上昇傾向にあるので、男鹿への波及も含めて当方でも微力ながら力になっていきたい。

伊藤企画政策課長

結婚できる・できない、する・しないについては、特定の何かをすれば大幅に改善するものではありませんので、様々な分野で連携し、施策を組み合わせながら支援を行っていきたい。

越後谷真悦委員

スポーツが戦略に示される多岐の分野にわたって影響していると感じている。地域の賑わい、関係人口の創出にもつながることから大会誘致の話を以前もさせていただいたが、展望はどうか。

話は変わって、先日、男鹿市出身の秋田大学生が市内中学校を回って講演会を行った。まだ19歳とは思えない立派なお話をされていた。それを聞いた生徒も心を打たれている様子で、こういった子が将来男鹿に残ってくれることが財産だと思った。進学で市外・県外に出る子が多くいるが、地元に戻ってくる子らへの施策もあってしかるべきかと感じている。男鹿という地域の特性を生かして検討して行ってほしい。

栗森教育長

現在、大会については特別な誘致は行っていないが中体連は持ち回り開催であることから機会をとらえて行ってまいりたい。

講演については、非常にインパクトのあるもので生徒たちにも評判が良かったと伺っている。生徒たちもこういった道を歩んだ先輩がいるということを心に刻んで、自分の人生にも生かしていただきたい。また、ふるさとに残りたいという思いを子供たちの心を育んでいくことが大切だと考えている。

原田文化スポーツ課長

スポーツ大会について、来年度高校ラグビー東北大会が総合運動公園で実施されることとなっている。今後は、各競技団体との連携により新たな大会等の検討を行っていききたい。

橋本秀樹委員

確認事項として、一覧表では現状値と目標値の記載しかない。資料としては期間中毎年ごとの指標があると思うが、どのように検証していく予定としているか。

また、新たに関係人口という言葉掲げているが、国の動向を見ていると核になる関係人口層というのは域外から地域に入り込んで、地域課題を共に解決できる人という定義づけがなされてきている。大みそかに男鹿にきてナマハゲをやってみたいという方が全国にはいらっしゃる一方、集落ではナマハゲのなり手がいないという悩みを抱えている場合もあると思う。両者のニーズが一致すれば、移住定住までいかない一時的な関わりであっても地域課題の解決につながることも考えられる。県でも関係人口創出の一環として施策を検討

しており、ぜひ協働して取り組んでまいりたい。

事務局（佐藤）

途中経過の検証については、数値としては達成率で割り出し、文章で補足していく手法で行っていききたい。

地域外の方が地域づくりの担い手となることが期待される関係人口だが、今までであれば交流人口で終わっていた方々も引込み、増加に向けた施策を行ってまいりたい。

菅原市長

今は組織に横串を通すことを重点的にやっている。皆さんからもぜひいろいろな情報を発信していただけるようこちらも努めていく。男鹿は多くの切り口があるが、それらを生かせるよう協力し合いながらやっていきたい。今後ともよろしく願います。